

# 個性ある美しい豪邸に驚き



カリフォルニアの一般的な家

アメリカに来て、早26年。渡米時、長女は1歳未満。家族3人で引っ越し荷物、スーツケース2個と友人から借りた何枚かのシーツのみ。12月にアパートを借り、ヒーターを入れたものの、全然暖かくならず、3人でぴったりとくっ付いてどうにか夜を明かしました。

翌日、管理会社にヒーターが壊れていると連絡を入れたのですが、壊れているのではなく、種火をガス会社に連絡して点(つ)けてもらうようにと言われ、即

電話。そんな事から始まったカリフォルニアでの生活も、4回の引っ越しを繰り返し、私も今ではプロの不動産エージェントとして頑張っています。

仕事柄、多くの物件を目にするなか、アメリカ人の家は、まるで、モデルルームのようにきれいなことに驚かされる事が多い。家族4人が住んでいる家なのに、何で、こんなにきれいに保てるのか？

家族の写真が廊下や、暖炉の上にはずらりと並んで、美女、美男がどんだけとい

うくらの笑顔で真っ白い歯を見せてる。それだけではなく、中にはお手伝いさん専用の寝室とバスルームが、キッチンの横にあったりする。まさに豪邸。小さな映画館を設置している家もあって、観客席が10席。それも、ちゃんと段になっている究極のエンターテインメント。

しかし、一方ではローンが支払えずに銀行差し押さえになった家も多くあり、中に入ると、壁に穴、ドアは壊されカーペットもひどい状態。そしてドアに貼ってあるミッキーマウスのシール。子供部屋だったのだから、少なくとも、ある時期は幸せな家族として住んでいた事がうかがえ、ここが念願のマイホームであった、その住人の怒りがそこにあるように感じる。

家には、それぞれ個性があって、住人の人柄が一步入ると伝わってきます。

私の家は、18年前、一步中に入った時、とても温かな幸せな気持ちになり、すぐ購入を決めました。家族は4人となり、皆元気でやっています。これからも、家探しのエキスパートとして、より良いサービスを皆さまに提供していきたいと思えます。(文・八木左千子)



やぎ・さちこ 高山市出身。92年加州不動産資格取得。96年税理士資格取得。夫は静岡県出身。

身。長女はオーストラリア生まれ。長男は加州アナハイム生まれ。54歳。